

# 業界の

# 声



● 山梨県バス事業協同組合

副理事長 大木 俊隆氏

## 業界の景況は？

他の業界と同様に景気はあまり良くありません。景気が悪い原因としては、他業種と同様に原油高騰による経費増加の他に、県内のバス業界全体が供給過多の状況を長く続けている事にあると思います。これは10年ほど前に行われた規制緩和により、比較的容易にバス事業に参入できるようになったことが原因として考えられます。

規制緩和以降、県内のバス事業者数は約3倍に急増しました。このためダンピングによる値下げ競争が横行し、売上単価は最盛期の6割ほどになるなど収益を圧迫しています。

また、団体旅行の減少も厳しい景況を招いている一つです。多くの業界で経費削減や若手職員の団体旅行離れなどが原因で社員旅行が中止され、さらに、ゆとり教育による授業日数の減少のため学校旅行も減少しております。

さらに、期待していた大河ドラマ「風林火山」の放映による観光客の増加についても、山梨を訪れる大多数の観光客が県外から他県業者のバスを利用しているため売上げに結びついていません。

## 今後の展開は？

一つには、乗務員の資質向上が求められていくと思います。当たり前前のことですが、気持ちの良い接客態度、腕ではなく『心』で運転する等でリピーターを増やしていく事が必要です。

もう一つは、環境への配慮です。近年、ディーゼル車の排気ガス規制の關係で、年式の古いバスの運行が一部地域で禁止されています。このような状況はバス事業者にとって厳しいことですが、一方で、多少なりとも保有車両の減少により供給過多が緩和され、地球環境にもプラスになることで、バス業界にとっては歓迎すべきことではないかと思えます。

